

「ゆーすぴあボランティア塾」

★事業の概要★

事業のねらい

1. ボランティア活動を行う上で必要な知識・技術について講義、演習、実習をとおして習得する。
2. 青年層の自律を促すために、様々な世代との関わりをとおして生きがいを見出し生き抜く力を磨く契機とする。

期 日

平成26年5月17日(土) ～ 5月18日(日)

会 場

国立大雪青少年交流の家

对象者

高校生以上でボランティア活動に興味関心のある方

参加者数：参加募集人数

11名：20名

講 師

大雪消防組合美瑛消防署
中 尾 隆 氏 (MOA 光輪花クラブ)
国立大雪青少年交流の家職員

日程

		1000		1030		1200		1300		1430		1500		1800		1900		2030		2200	
5/17 (土)			受付	開 会 式	青少年教育 の理解		昼 食		ボランティア 活動の意義		休 憩	救命救急法					夕 食		ボランティア 活動の理解		就寝
7:15		7:30		9:00		10:30				14:00		14:30									
5/18 (日)	つ ど い	朝 食	青少年教育 施設の現状 と運営	キッズランド (ゲーム大会、クッキング、クラフト体験)						ま と め	開 会 式										

★プログラム紹介★



説明①「青少年教育の理解」

青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活動の必要性について学んだ。



研修②「ボランティア活動の意義」

ボランティア活動の意義について「華道」を行いながら、人との接し方や、心構えを学んだ。



研修③「救命救急法」

普通救命講習を実施。応急手当の基礎知識や救命手当の基礎技術について学んだ。



研修④「ボランティア活動の理解」

青少年教育施設におけるボランティア活動の内容を理解し、子供が参加する事業の企画運営について学んだ。



研修⑤「青少年教育施設の現状と運営」

青少年教育施設の教育機能や役割、運営について学んだ。



研修⑥「キッズランド」

実際に小学生と関わる中で、ボランティアとして必要な知識や技術を体験的に学んだ。

企画・運営のポイント

- ・ ボランティアの知識や技術を、実際の体験から、学ぶことができるように、プログラムを構成した。
- ・ 参加者同士の交流も考慮し、プログラムの中でグループで活動する場面を多く設定した。

事業を終えて（成果と課題）

- ・ アンケート結果から、体験活動を多くしたプログラム構成や、グループ討議を多くした活動について好評価を得ることができた。
- ・ 教育大学の行事と日程が重なっていたため、参加者が少なかった。来年度、日程を決める場合は考慮する。

今後の方向性

今後も、体験活動を多く取り入れたプログラムを構成していく。参加者同士がネットワークを構築できるよう、働きかけていく必要がある。